

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：14302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13560

研究課題名（和文）神聖ローマ皇帝軍における貴族の軍務とハプスブルク世襲領の再編

研究課題名（英文）Army, Aristocracy, and the reorganization of the Habsburg monarchy in the 17th century

研究代表者

斉藤 恵太 (Saito, Keita)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20759196

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、近世ヨーロッパにおける貴族と君主の関係を軍隊という視覚から検討した。具体的には、1618年から1648年まで続いた三十年戦争における神聖ローマ皇帝（オーストリア・ハプスブルク）の軍隊に着目し、軍事的奉仕を通じて貴族と君主が取り結んだ互酬的な関係と、それが皇帝の世襲領の再編にとって持った意味を考察した。そして、貴族が皇帝に貢献するために動員した社会的なネットワークの広がり、それに対する皇帝の報酬のありようを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一般的に近世のヨーロッパ史は「絶対主義」の時代とされ、貴族は君主に「馴致」された消極的な存在とみなされるか、あるいは君主主導の「近代化」を妨げる保守勢力としてネガティブな意味づけをされることが多かった。それに対して本研究は一次史料に基づいて従来の見方を批判的に再検討し、実態のレベルから貴族と君主の互酬的な関係を明らかにしたことに意義がある。また貴族の存在はヨーロッパ的な現象であるゆえに、今後、国民史的な歴史の枠を超えた比較史や関係史の視野を開くための礎にもなるものである。

研究成果の概要（英文）：This research project explored the relationship between the Early Modern aristocracy and the Austrian Habsburg monarchs. Focusing on the imperial army during the Thirty Years War from 1618 to 1648, this research analyzed their reciprocal interchange on the basis of the military service and its influence on the reorganization of the Habsburg hereditary lands. Thereby the networks of the aristocracy played a fundamental role, which was rewarded by the imperial donation of confiscated lands.

研究分野：近世ヨーロッパ史 ドイツ史 イタリア史

キーワード：軍隊 貴族 社会的ネットワーク

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近世ヨーロッパ史において、軍隊は長らく官僚制と並んで君主による中央集権的な支配の核とみなされてきた。これに対して、現在の研究では二つの方向から批判的検討が進められている。まず軍隊に関しては、君主による統制の試みだけでなく、軍隊を構成した人々に目が向けられるようになった。近年の研究では、君主を頂点とする軍隊組織のヒエラルヒーよりも、むしろ指揮官層が相互に結んだ多元的な社会関係が、戦時・平時を問わずに軍隊の実態を規定した要因として重視されている (D. Parrott, *Richelieu's army*, Cambridge 2001; C. Winkel, *Im Netz des Königs*, Göttingen 2013)。また近世国家そのものに関しても、君主による一元的支配の限界はもはや自明とみなされ、多様な身分や地方からなる複合政体としての内実が問われている (古谷大輔・近藤和彦編『礫岩のようなヨーロッパ』山川出版社、2016)。

以上に示した動向の特徴の一つに、従来は「絶対君主」に服従させられた存在として否定的に評価された貴族が、支配エリートとしての重要性を再認識されつつあることが挙げられる。今後は、再検討の中心となってきたフランスやプロイセン以外に対象を広げ、ヨーロッパレベルでの比較検討を可能にするための足がかりを築くことが求められている。

2. 研究の目的

本研究は近世ヨーロッパにおける貴族と君主の関係を軍隊という視角から捉え直し、「絶対主義の時代」という一面的な理解に代わる像を提示する。具体的に着目するのは17世紀、特に三十年戦争期の神聖ローマ皇帝軍である。皇帝軍では主にハプスブルク世襲領の外部から来た貴族が組織の中核を担い、広域にまたがる社会的ネットワークを動員して皇帝のために人材や資金を調達していた。他方で、彼ら貴族は見返りに土地や官職を与えられて世襲領に土着化し、皇帝と互酬的な関係を築いた。これらの諸点を検討することにより、貴族と君主が互いに影響を及ぼし合いながら関係を再編した時代として近世を捉える視座を築くことが本研究のねらいである。

3. 研究の方法

本研究は、(1) 指揮官層の出自、(2) 貴族の社会的ネットワークの機能、(3) ハプスブルク世襲領の再編と「新貴族」という三つの論点を通じて皇帝軍における貴族と君主の関係の検討を図った。

(1) 指揮官層の出自

三十年戦争はハプスブルク家の本拠地の一つであるボヘミアとオーストリアでの貴族の反乱から始まった。そのため、皇帝は兵力の立ち上げにあたって在来の貴族だけに頼れず、外部の軍事エリートを必要としていた。さらに皇帝は、皇帝派の傭兵隊長として一時は大きな役割を果たしたボヘミア貴族ヴァレンシュタインを謀反の嫌疑で暗殺して以来、世襲領の貴族に対する不信を一層深めることになる。こうした背景の中で組織された皇帝軍において指揮官層がどのような地理的・社会的出自を有していたのかを明らかにすることを本研究の最初の課題とした。

(2) 貴族の社会的ネットワークの機能

皇帝軍では官僚による行政機構が未発達だったため、軍隊を運営するためには高い組織力を持つ貴族による仲介が不可欠だった。傭兵隊長となった貴族の社会的ネットワークは、皇帝が人材や資金を得るための回路になったと考えられる。こうした社会的ネットワークの広がりとその機能を明らかにすることが第二の課題である。

(3) ハプスブルク世襲領の再編と「新貴族」

皇帝による内乱鎮圧とヴァレンシュタイン暗殺は、ハプスブルク世襲領、特にボヘミアの抜本的な領域再編へとつながった。ここで注目すべきなのは、反乱貴族から没収された領地や爵位の多くが、傭兵隊長として貢献した外来貴族に報酬として再分配されたことである。その結果、皇帝にとって比較的高い忠誠を期待できる「新貴族」が世襲領内で一定の勢力を占めることになる。このように外来の貴族が軍務を介して皇帝と互酬的な関係を築く過程を分析することが第三の課題である。

4. 研究成果

以下では上記の三つの検討課題について本研究課題の主要な成果と関連付けつつ記述する。

(1) 指揮官層の出自

ボヘミア及びオーストリアというハプスブルク家の本拠地における在来の貴族と皇帝の緊張関係を踏まえ、初年度にはまず皇帝軍の幹部クラスの指揮官層の出自を中心に調査した。その結果、皇帝軍では外来の貴族、特にマッティア・ガラツォやオッターヴィオ・ピッコロミニ、アンニバーレ・ゴンザーガ、ライモンド・モンテクッコリといったイタリア語圏出身の貴族が軍の最高指揮官やウィーンの軍事官庁の幹部として重用されていたことが明らかになった。またこれに伴って、イタリア系の傭兵隊長のプロソポグラフィ的分析の必要性が浮かび上がってきた。

(2) 貴族の社会的ネットワークの機能

上記(1)の成果を受けて、初年度の後半から3年度にかけてはガラツソとピッコロミニが血縁や婚姻、交友を通じて築いた社会的ネットワークを分析した。その結果、彼らの人的つながりが皇帝と同盟する諸侯軍にも広がり、その内部で皇帝派を形成することに寄与していたことが明らかになった。さらに交友関係の検討を通じて、傭兵隊長間の人的つながりが、諸侯の軍からの引き抜きというかたちで人材の獲得に貢献していたことが判明した。これらの点についてはイタリア中近世史研究会(2017)、アルプス史研究会(2017)で研究報告を行い、フィードバックを得た。またこの論点の検討を通じて得た知見は、報告者が本研究課題の以前から進めてきた研究にも発展的に統合され、博士論文をベースとした単著(2020)にも活かされた。

(3) ハプスブルク世襲領の再編と「新貴族」

第三の課題に関しては、特に2~3年度にかけて考察を進めた。具体的には、ガラツソとピッコロミニを中心に、傭兵隊長が軍務の報酬としてハプスブルク世襲領に所領を与えられ、在来の貴族より高い忠誠を期待できる「新貴族」として移住・定着する過程を検討した。これを通じて、貴族と君主の共存関係が築かれる具体相を明らかにすることができた。その成果はメトロポリタン史学会(2019)で口頭発表をしたのち、論文として公表した(2019)。

また3~4年度にかけてはさらなる発見があった。モンテクッコリやゴンザーガの経歴と人脈を調査するなかで、傭兵隊長の社会的ネットワークは従来の研究で看過されてきたイタリア諸国にも広がり、皇帝の軍事・外交にとって重要な意味を持っていたことが明らかになった。特にゴンザーガ家は、皇帝軍で果たした軍事的な役割に加え、オーストリアとスペインの両ハプスブルク家間の仲介者としても重要な意味を持っていたことが浮かび上がってきた。この役割を通じてゴンザーガ家は皇帝とスペイン王の庇護を得ることができ、そのことは所領の獲得をはじめとする家門の繁栄に大きく寄与していた。この新しい知見に関しても既に論文(2020)として端緒的な成果を公表した。

以上の諸成果を通じて、本研究課題は近世を君主による一方的な支配の時代としてではなく、貴族と君主が互いに影響を及ぼしながら利害を調整する過程として描き直すための足がかり築くことができた。ただし、個々の傭兵隊長の社会的ネットワークが持った広がりとその意義については、とりわけゴンザーガとモンテクッコリを中心に、本研究課題の成果を今後の研究において発展的に継承し、深めていく余地があるといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 斉藤恵太	4. 巻 10
2. 論文標題 近世イタリアの君主国と三十年戦争 マントヴァ継承問題にみる国のかたちの諸相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界史研究論叢	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤恵太	4. 巻 15
2. 論文標題 近世ヨーロッパの軍隊と貴族の紐帯	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 101-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤恵太	4. 巻 1
2. 論文標題 三十年戦争	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 金澤周作編『論点・西洋史学』	6. 最初と最後の頁 168-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 斉藤恵太
2. 発表標題 近世イタリアの「国のかたち」問題と軍事史研究 比較へ向けた試論
3. 学会等名 早稲田大学高等研究所「新しい世界史の可能性」セミナーシリーズ：白幡俊輔報告「近世イタリア君主国の常備軍と軍政システム」へのコメント（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斉藤 恵太
2. 発表標題 近世ヨーロッパの軍隊と貴族の紐帯 17世紀の神聖ローマ皇帝軍を中心に
3. 学会等名 メトロポリタン史学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斉藤 恵太
2. 発表標題 傭兵隊長ガリソンと神聖ローマ帝国 三十年戦争期の軍隊における人脈と帝国の政治
3. 学会等名 イタリア中近世史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斉藤 恵太
2. 発表標題 近世ヨーロッパ史のなかの軍隊 「上から」と「下から」の間の視点へ
3. 学会等名 ドイツ現代史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Keita Saito
2. 発表標題 Administrator oder Krieger? Der bayerische Kriegskommissar waehrend des Dreissigjaehrigen Krieges
3. 学会等名 International Workshop: Administration, Logistik und Infrastrukturen des Krieges in der Fruehen Neuzeit. Sektion II: Administration des Krieges（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斉藤 恵太
2. 発表標題 近世ヨーロッパの軍隊における人材の移動と交流 三十年戦争期のバイエルンとオーストリアを例に
3. 学会等名 アルプス史研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Keita Saito	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Vandenhoeck&Ruprecht	5. 総ページ数 346
3. 書名 Das Kriegskommissariat der bayerisch-ligistischen Armee waehrend des Dreissigjaehrigen Krieges (Herrschaft und soziale Systeme in der Fruehen Neuzeit 24)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------